

令和5年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(潟上市)

1 市の概要(人口 31,673 人)※令和5年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和5年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1園	1園	4園	1か所	0園	0園	6校

その他:小規模保育所2 事業所内保育施設1 認可外保育施設5

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 各園の形態や地域性を生かした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援のあり方についての検討と指導體制の構築が必要である。</p> <p>(2) 市幼保小連携事業において情報交換と子ども同士の交流は年数回行われているが、就学に向けての具体的な取組には差が見られる。</p> <p>(3) 就学前施設と小学校の職員双方の「小学校への円滑な接続」に対する共通理解が必要である。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<p>令和元年度以前は、市に運営相談員を配置し各園の保育指導にあっていたが、本補助事業を受け市全体の課題の解決に向けて園種を超えて学び合う体制の構築に努めてきたことで、園全体で保育改善に努めようとする意識の変容が見られるようになってきた。</p> <p>また、県との連携により本市アドバイザーの育成支援が図られたことで、各園への適切な指導につながった。今後は、教育課程の編成により深く関わり、小学校への円滑な接続に向けた事業の推進に努め、市全体の幼児教育の質の向上を図る。</p>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 教育委員会教育総務課に幼児教育アドバイザーを配置する。福祉保健部子育て応援課と連携し、円滑な就学に向けた事業を実施する。</p> <p>(2) 幼児教育アドバイザーによる園の支援 市内各就学前施設への巡回訪問と要請訪問による指導と保育者との個別面談による課題の把握と解決のための支援を行う。</p> <p>(3) 専門性の向上のための研修の充実 各施設の課題に対する研修と研修リーダーの育成、公開保育研究会を実施し広域的に学び合う体制を構築する。</p> <p>(4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実 各小学校区での相互職場体験、情報交換、合同研修会を実施する。指導計画やスタートカリキュラムの改善を図る。</p> <p>(5) 県との連携体制の確保 就学前教育推進協議会及び教育保育アドバイザー連絡協議会への参加するとともに、市幼児教育アドバイザー育成のための県指導主事及び県教育・保育アドバイザーの訪問による助言や支援を受ける。</p>	
年度別重点	
令和4年度	園内研修の充実、相互職場体験の質の向上
令和5年度	架け橋期カリキュラムの作成、園同士の情報交換等の体制構築

	園・小学校の職員の合同研修（幼小連携の意識を高める）
令和6年度	架け橋期カリキュラムの実践・評価・改善、架け橋期の保育・教育の質の向上

4 令和5年度 of 具体

目的

小学校と就学前施設が、教育・保育課程等の相互理解を図り円滑な接続に向けて連携を推進するための事業を実施し、学びの連続性を保障するための体制の構築を図る。
園訪問を通して園内研修の充実と保育の質の向上を図る。

実施内容及び実施状況(中間)

- 1 幼児教育アドバイザーによる就学前施設への支援
 - 訪問により各園の実態や課題を把握し、教育保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもち、各園の教育及び保育の質向上を目指す。
 - ・訪問支援
(市に配置されている特別支援教育専門の教育支援アドバイザーも園訪問して、必要な支援等について助言する)
 - ・主体的な園内研究への支援と助言
 - ・体力向上事業（保育士同士の研究ネットワークづくり、基幹園への助言等）
 - ・研修リーダーの育成
 - ・就学前施設の連絡会の実施（施設間のネットワークづくり）
 - ・園主体の就園連携合同研修会の実施、園主体の運営となる仕組み作り
- 2 専門性向上のための研修の充実
 - 園訪問等で把握した課題をもとに、市全体の課題に対する研修等を実施する。園の形態の区別を超えて学び合う体制を構築し、保育者の専門性の向上を図る。
 - ・特別支援教育についての研修
園経営・保育計画への特別支援教育の視点
担任・加配保育士の悩みを聞き取り、課題解決につながる研修の実施
専門機関との連携（地域の特別支援教育アドバイザー、天王みどり学園、医療・福祉機関）
 - ・キャリアステージに応じた研修会の実施（ミドルリーダー、男性保育士、保育補助等の研修）
 - ・公開保育研究会（実施園6園）
 - ・保育実践研修会（市内全就学前施設対象）
- 3 小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実
 - ・市幼保小理解推進事業を実施し、小学校への円滑な接続を図る。
 - ・相互職場体験の質の向上（全小学校区で実施・幼児教育アドバイザーの同行）
 - ・児童・園児の交流（好事例の紹介、交流に向けた事前・事後の連携、検証）
 - ・相互理解を深めるための、園の公開保育への小学校教員の保育参観・協議への参加、園職員の小学校の研究授業の参観・協議への参加又は生活科の授業参観の促進
 - ・幼保小合同研修会の開催（先進市町村の取組から学ぶ）
 - ・幼保小連携便り（月1回発行）
- 4 接続期カリキュラムの改善
 - ・市内の学校区の好事例の紹介
 - ・他市町村の取組についての情報収集
 - ・園と小学校が行うカリキュラムの修正作業へのアドバイザー参加・助言
- 5 県との連携体制の強化、他市町村とのネットワークの構築
 - 他市との情報交換、先進市の視察訪問、県との連携などアドバイザーの育成支援により、本市

事業を円滑に進める。

- ・ 県アドバイザーの訪問指導による市幼児教育アドバイザーの育成支援
- ・ 県幼児教育推進協議会及びアドバイザー連絡協議会への参加
- ・ 他市アドバイザーに学ぶ研修会

(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

①特別な支援を必要とする子どもへの支援の視点からの連携の充実を図る。

- ・ 教育委員会と子育て応援課で実施されている乳幼児検診、年中児相談（4歳児対象）、専門検査員による園訪問（4・5歳児対象）、わくわく教室（5歳児対象の幼児通級教室）、就学に向けた保護者相談、ことばの検査（小学1年対象）等の事業の目的の再確認と共有、課題の見直し等を行った。
- ・ 子どもの情報を共有し、切れ目ない支援へつなげる体制づくり。

②研修を担当する教育委員会と、施設管理・職員の勤務等を担当する子育て応援課との連携

- ・ 園での施設面・保育面の課題や、職員一人一人の思いなどを情報共有しながら、支援していく体制づくりを進める。
- 特別支援に関する園と小学校で作成する資料の様式を統一することで、職員の負担軽減を図るとともに、小中学校への引継ぎ資料としても活用できるようになった。
- △職員が変わっても、連携が持続するような仕組み作りが必要である。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

①園訪問により各園の実態や課題を把握し、保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもつことで、各園の教育及び保育の質の向上を図る。

- ・ 市内就学前施設への巡回訪問と要請訪問の実施。
- ・ 園内研修や公開保育への支援。
- ・ 個別相談の実施。
- ・ ケース会議への参加。
- ・ 就園連携事業の推進。

②公立園の園長会議や就園連携合同研修会等に参加し、教育課程や園内研修、幼保小連携等について助言するとともに、事業の共通実践事項の周知を図る。また、園長や主任からの情報や意見を吸い上げ、園訪問や市主催研修等に生かすようにする。

- ・ 園長会議への参加、情報提供、助言(月1回)
- ・ 主任会議への参加、情報提供、助言(随時)
- ・ 就園連携合同研修会 (4月、11月、2月)
- ・ 小規模保育施設連絡会 (4月、11月)

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標 (潟上市)

派遣実績 計 14施設/全14施設 105回	
回	・ 保育所：公立1園 (22回)
数	・ 幼保連携型認定こども園：公立4園 (127回)
	・ 幼稚園型認定こども園：私立1園 (10回)
	・ その他の施設： 小規模保育所2か所 (12回)、認可外保育施設5か所 (26回)、事業所内保育施設1か所 (5回)
	・ 小学校：6校 (43回)

訪 問 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5園（75回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5園（25回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5園（68回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、6園（92回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、14園（71回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5園（5回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校6園（69回））
理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した園訪問により、各園や保育者の課題に沿って支援をし、保育の質の向上を図るため。 ・就学前教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、就学前施設と小学校の教職員が互いに理解を深め、幼小連携の推進を図るため。

○保育参観、園内研修ともに、自分の考えや思いを積極的に伝える保育者が増えてきた。意見交換を通して他者から刺激を受けながら保育改善に取り組んでいる。研修前後の管理職との話し合いでは、職員の成長や園の成果・課題を共有することで今後の園運営の方向性を確認してきた。

○保育参観の振り返りでは、子どもが主体的に遊ぶ姿やの学びの過程を写真で可視化しながら話し合うことで、保育者の子ども理解が深まったり、保育への手ごたえが高まったりしている。

●△園内研修では、子ども理解の深化や話し合いの焦点化が課題である。また、園によって話し合いの深まりに差が感じられる。各園の願いを生かしながら、計画訪問や要請訪問時の指導・助言を基に、園内研修の進め方や話し合いの深め方について園と共に考えていきたい。

△昨年度より、園の研修日が他園の訪問や小学校訪問と重なってしまい、参加できないことが増えた。日程調整をしながら、できるだけ参加できるように努めたい。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

①市主催保育実践研修会の開催

ア 保育実践研修会①

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。

日時：令和5年4月13日（金）

参加者：13名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「0・1・2歳児の育ちの理解と保育者の援助」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

<参加者アンケート結果>

①満足13名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

<参加者の感想>

・0・1・2歳のうちに、たくさん気持ちを受け止めてもらうこと、たくさん自己主張すること等、大切な根っこの部分を育てていくことの大切さを改めて学んだ。分かっていたようで、分かっていたいなかった。

○昨年12月に同内容の研修を実施した際、園長会から再度要望のあった研修である。参加者のアンケートからも、研修内容に対する高い満足度と今後の保育への意欲が感じられた。

○3月に研修予定を各園に知らせ、園児数が一番少ない年度初めに研修会を実施したことにより、小規模保育施設からの参加者が昨年度に比べ格段に増えた。

イ 保育実践研修会②

目的：1・2歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和5年4月21日（金）

参加者：14名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「1・2歳の保育記録と指導計画・評価」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

<参加者アンケート結果>

① 満足14名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

<参加者の感想>

・指導計画を書くにあたり、一人一人の子どもをしっかりと「観る」ことの大切さを実感した。記録は、研修シートのように書くことで、次のねらいにもつなげていけることが分かった。

○乳幼児理解や子どもの見方、チームで多角的に意見を出し合い子ども理解を深めていく重要性を、講義や演習から参加者は学ぶことができた。また、保育記録や指導計画の基本を再確認することもできた。

ウ 保育実践研修会③

目的：3～5歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和5年4月28日（金）

参加者：7名

場所：かたりあん研修室2・3

内容：講話「3～5歳の保育記録と指導計画・評価」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 白畑 展子 氏

<参加者アンケート結果>

① 満足6名 ②やや満足1名 ③やや不満0名 ④不満0名

<参加者の感想>

・映像を見て子どもの姿の話合いをしたときに、気付かなかった見取りがたくさんあった。自分の考えのみで保育するのではなく、園の職員と盛んに意見交流し、多面的に子どもを見られるようにしていきたい。

・環境構成の中で「状況をつくる」ということは大事だと思った。子どもたちが興味をもって自らやってみようとする雰囲気づくりをしていきたい。

○参加者のほとんどが園のリーダー的存在であった。じっくり意見交換をすることで、より一層子どもの読み取りや発達の理解を深めることができた。園内研修でも活用したいとの声が多かった。

●△研修リーダーを対象としたために、参加者が限定されてしまった。可能な限り多く参加してもらうために、研修対象者について再考したい。

エ 保育実践研修会④

目的：0歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和5年5月15日（月）

参加者：12名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「0歳の保育記録と指導計画・評価」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

<参加者アンケート結果>

① 満足12名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

<参加者の感想>

・0歳児はすべての年齢の基礎となっていることを、改めて学んだ。一人一人とじっくり関わりながら思いに寄り添って安心して過ごすことができるように、チームで連携していきたいと思う。

○子どものしていることの中の隠れている学びに気付き、客観的に捉えて記録する「育ち

の言語化」の重要性について、参加者は学ぶことができた。0歳児だけでなく全学年で意識してほしい内容であり、園での研修報告を通して職員に周知を図るようにした。
○グループによる話し合いは短時間であったものの、それぞれの見取りや考えを共有することができ、参加者からも好評だった。

オ 保育実践研修会⑤

目的：特別な配慮を必要とする乳幼児の理解と支援の在り方について理解を深める。

日時：令和5年5月29日（月）

参加者：14名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「特別な配慮を必要とする乳幼児の理解と支援」 演習

講師：秋田県立支援学校天王みどり学園 教育専門監 小野 直子 氏

<参加者アンケート結果>

① 満足12名 ② やや満足2名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

<参加者の感想>

・支援の必要な子どもの行動を止めるのではなく、感じている困難さを読み取り、それを取り除けるよう援助したり、その上でその子どものよいところを十分に発揮できる場を作ったりするという考え方に変わっていきたい。

○担任や支援児担当、主任が参加した。特別な配慮を必要とする子どもへの基本的な関わり方について学ぶことができた。

○特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方で悩んでいる園も多い。より多くの職員に研修内容を知ってもらうため、講話のDVDを作成して市内全園に配付し、園内研修に活用してもらうようにした。

カ 保育実践研修会⑥

目的：保育補助者として、子どもの発達理解と内面理解を深め、保育に向かう基本的な態度について確認し、各職員の資質の向上を図る。

日時：令和5年6月14日（水）

参加者：保育補助職員 25名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「こどもをみるとは」 演習

講師：聖園学園短期大学 教授 蛭田 一美 氏

<参加者アンケート結果>

① 満足25名 ② やや満足0名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

<参加者の感想>

・子どもの今の気持ちを表情や動きから感じることの大切さや、見守ることの大事さを改めて学ぶことができた。大人から見て、ただの遊びや動きに見えるものでも、子どもにとっては必ず意味のあり、子どもなりに考えていることなのだ気付くことができた。

○子どもに関わる立場として「子どもをみる」とはどのようなことか、演習を交えて分かりやすく講話をしていただいた。保育補助職員の意欲を高める講話・演習であった。

△保育補助職員の研修を大切にしたいと保育補助職員全員が参加した園があった。子どもの育ちを園全体で支える観点からも、研修会の回数や参加しやすい園体制について検討していきたい。

キ 保育実践研修会⑦

目的：園内研修の一層の充実を図るため、研修の進め方や手法に関する専門性を高めるとともに、研修リーダーとしての資質向上を図る。

日時：令和5年7月21日（金）



【ファシリテーター研修会】

参加者：17名

場所：潟上市役所2階第1・第2会議室

内容：講話「園内研修の充実とファシリテーターの役割について」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石 郁子 氏

<参加者アンケート結果>

①満足17名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

<参加者の感想>

- ・ねらいに立ち返ることの重要性や、ゴールはどこかを念頭に置くことの大切さが分かった。
- ・参加者の意見をいかに出せるようにするか、ねらいに向かって方向性を定められるかというところが大切だと思った。

○研修会で研究協議の基本的な進め方を学んだことで、その後の園内研修の改善の参考にする園が多く見られた。

△どの園でも園内研究を行い輪番でファシリテーターをしているが、園内研究の雰囲気や深まりは、個人の力量によるところが大きい。今回は基礎編の研修であったが、今後も基礎編、応用編と同様の研修を継続して実施し、より多くの職員が研修に参加する必要性を感じた。来年度の研修会計画に提案していきたい。

ク 保育実践研修会⑧

目的：先進園視察や自園の課題解決のための研修を通して、保育実践力やマネジメント能力の向上を図る。(男性保育者対象)

研修① 日時：令和5年7月26日(水)

場所：昭和こども園 2階会議室

内容：自園の研修の取組や課題把握、情報交換

研修② 日時：令和5年7月28日(金)

場所：中仙ワイワイランド

みつば保育園

内容：先進園を2班に分かれて視察・実践研修、協議

研修③ 日時：令和5年8月9日(水)

場所：昭和こども園 2階会議室

内容：課題解決のための今後の取組計画作成、情報交換

参加者：4名

<参加者アンケート結果>

①満足4名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

<参加者の感想>

- ・一緒に保育に参加しながら他の男性保育士の保育を見ることができる貴重な機会となり、普段自分が保育している姿を俯瞰的に考える機会となった。
- ・実際に保育に参加して行う研修、その後の協議は初めての経験であったが、子どもの姿を読み取り、保育者の思いを深く知ることができた研修方法だった。

○園に配置されている男性保育者は各1名である。男性保育者同士で話し合う機会がこれまでなかったため、男性保育者の研修会を初めて実施した。研修①③では、保育実践の取組や現状について積極的に意見交換がなされた。

○大仙市アドバイザーや大空大仙男性保育会の協力を得て、他市の男性保育士とともに保育参加をしたり協議したりすることにより、より客観的な目で自身の保育を振り返る機会となった。また、保育改善のヒントやアイデアを得ることができ、保育への意欲を高めることができた。

△研修内容を検討しながら、男性保育者の思いを話し合える場を今後もつくっていききたい。



【男性保育者研修会
大仙市みつば保育園職員との協議】

※保育実践研修会全般の成果と課題について

○年度始めに年齢別研修会を実施した。今年度の保育に生かそうと熱心に研修する姿が見ら

れ、研修内容も概ね好評価を得た。

○研修内容については、園の管理職・保育者の要望を聞くとともに、園の課題を洗い出し、その解決につながる研修を実施することができた。さらに、園内研修や特別支援教育に関する研修には主任の参加を促し、園運営や職員の助言に生かせるようにした。

△研修に参加した職員からは、継続してほしい研修や今後参加してみたい内容について様々な要望があった。職員の声や園長会議での意見を集約するとともに、園訪問や指導主事訪問等で課題となった点について精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していきたい。

②公開保育研究会、公開保育の開催

ア 公開保育研究会

期日：10月27日（金）

会場：追分保育園

参加者：11名 小学校職員1名

内容：保育参観、全体会（園内研究概要説明 保育の振り返り）、協議会、指導助言

指導者：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 白畑 展子 氏
幼保指導員 阿部 真理 氏

イ 公開保育

ア) 期日：6月22日（木）

会場：若竹幼児教育センター

参加者：10名

内容：保育参観、協議

イ) 期日：6月30日（金）

会場：追分幼稚園附属追分ベビー園

参加者：5名 小学校職員2名 評議員4名

内容：保育参観

ウ) 期日：7月19日（水）

会場：出戸こども園

参加者：10名 小学校職員1名

内容：保育参観、協議



【公開保育…小学校職員も協議に参加】

○協議を深めたり園内研修に生かしたりするために、参観者と公開園職員でテーマに基づいて協議を実施する園が増加した。

○自身の保育を振り返ったり環境構成の参考にしたりしようとする声が多く、日常の保育改善への意欲が高まっている。

●△昨年度より小学校の職員の保育参観が増えたものの、協議に参加することは少なかった。管理職や1年生担任だけでなく多くの小学校職員が保育参観や協議を通して子どもの育ちや学びを語り合えるように、働き掛けを工夫していきたい。

③保育実践研究「体力向上事業」の実施

ア 基幹園での実践

ねらい：遊びや経験を通して健康なところと丈夫なからだづくりを目指す。

内容：運動遊びを取り入れ、乳幼児期の心身の発達を促す。

発達段階を考慮した運動・遊びについて講師による講話を実施する。

心や体を十分に動かして遊ぶ取組を家庭に発信し、調和のとれた発達の大切さを知ら

せていく。

講師：ジュニアスポーツ指導員 本庄ゆかり 氏

研修日程：令和5年6月～令和5年10月まで9回講師による

園児への実技指導や職員への講話・実技指導を行う。

対象：0歳児～5歳児、職員

内容：6月26日 講話「乳幼児期の運動遊びの大切さについて」

参加者 16名

7月13日 実技（以上児の運動遊び） 参加者 12名

講話「苦手意識を吹き飛ばせ」 参加者 9名

7月20日 実技（未満児の運動遊び） 参加者 21名

8月29日 実技（未満児の運動遊び） 参加者 19名

8月31日 実技（以上児の運動遊び） 参加者 10名

講話「Q&A」 参加者 11名

9月14日 実技（以上児の運動遊び） 参加者 11名

2月8日 実技（4・5歳児の運動遊び） 参加者 13名（小学校職員4名）

公開保育：期日10月31日（火）

会場：天王こども園

参加者：10名 小学校職員3名

内容：保育参観、協議

イ 基幹園以外の公立4園での実践

各園の実態に応じ、園の方針や取組方法を計画し、指導計画に位置付けて実践する。

ウ 体力向上担当者会議の実施

ねらい：各園の体力向上担当者が自園の実践を持ち寄り、情報交換をしたり成果や課題について検討したりすることで、市内の子どもの体力向上と職員が広域的に学び合う体制を構築する。

期日：5月31日、8月7日、10月10日、12月13日、1月22日

- 今年度は講師による講話を3回行った。保育者が運動遊びの大切さを改めて理解することができ、実践に生かすことができた。また、未満児、以上児ともに実技を設定したことにより、小規模保育施設を含め市内全園が研修会に参加した。
- 2月の研修会には、小・中学校職員にも参加を呼び掛けた。参加は、小学校職員だけだったが、子どもの発達や指導方法をともに学ぶことができた。
- 担当者会議では、各園の実践を共有している。実技を通しての研修は、環境設定や遊びの工夫のヒントになるとともに、保育者の気付きも多いとの報告があった。また、一つの学年で行った運動遊びが他学年に波及している園も多かった。

④小規模保育施設と公立園・幼稚園との連携

ア 小規模保育施設連絡会の開催 4月18日（火）11月29日（水）

- ・小規模保育施設の園長等と子育て応援課主任、幼児教育アドバイザーで意見交換や情報共有をする。
- ・連携園との関わりについて、実態把握や今後のスケジュールを確認する。

イ 就園連携合同研修会の実施 4月18日（火）11月29日（水）2月19日（月）

- ・今年度の潟上市「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」の周知をする。
- ・小規模保育施設と連携園で、今年度の連携計画作成、進捗状況の確認、成果と課題等について情報共有をする。

ウ 相互保育参観の実施



【実技 未満児の運動遊び】

- ・連携する園で相互に保育参観をし、保育内容の情報交換や情報共有を図る。
- エ 園児の交流の実施
 - ・連携する園で、子どもたちの実態や職員間の話し合いを基に、子どもの交流する場を設定する。
- 就園連携合同研修会では、潟上市内全就学前施設の全園長が参集し、今年度の「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」を確認したり、連携計画を作成したりした。11月には中間評価を、2月には年度末評価と次年度の計画作成を行った。研修会や交流を通し、普段から気軽に相談し合う関係性が構築されてきている。
- 相互保育参観や園児の交流については、各園でアイデアを出し合いながら実践する園が多かった。
- △就園連携合同研修会については、今後も子育て応援課と教育総務課が連携して両課でサポートはするものの、運営のリーダーシップを連携園の管理職に担ってもらう方向で進めていきたい。
- △就学前施設間の横の連携強化は、小学校との接続にも好影響をもたらすと考える。継続して取組を後押ししたい。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」小学校教育との円滑な接続に向けて

①就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

・第1回就学前・小学校等潟上市合同研修会

期日：7月31日（月）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等 12名

園の園長または主任と5歳児担任等 15名

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

講師 大館市教育委員会教育研究所副主幹 山本多鶴子 氏

地区ごとのグループ協議「学区の子どもたちを10の視点で」

・第2回就学前・小学校等潟上市合同研修会

期日：1月10日（水）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等 14名

園の園長または主任と5歳児担任等 14名

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について
～子どもの姿から」

講師 聖園学園短期大学准教授 加藤順子 氏

小学校区ごとのカリキュラム作成作業

○就学前教育と小学校教育との円滑な接続について、考え方や具体例を大館市の実践や講師の講話から学ぶことができた。

○学校区の子どものよさや課題、期待する姿を共通理解した上で、カリキュラムについて話し合うことにより、具体的な子どもの育ちや学びを意識した単元構成や支援・援助、環境構成について検討することができた。

②就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

ア 情報交換会



【合同研修会…小学校区ごとのカリキュラム作成の話し合い】

- 5月25日 2月21日 東湖小学校・天王こども園
- 5月29日 2月13日 出戸小学校・出戸こども園
- 6月8日 3月1日 天王小学校・天王こども園
- 6月9日 2月21日 大豊小学校・昭和こども園
- 6月9日 2月27日 追分小学校・追分保育園・追分幼稚園
- 6月23日 2月26日 3月25日 飯田川小学校・若竹幼児教育センター

イ 相互職場体験

- 7月29日 追分保育園
- 7月27日、8月2日 天王こども園
- 8月8日 昭和こども園
- 8月22日 若竹幼児教育センター
- 8月30日 天王小学校
- 9月4日 大豊小学校
- 9月8日 追分小学校
- 9月21日 出戸小学校
- 10月11日 出戸こども園
- 10月17日 東湖小学校
- 11月10日 飯田川小学校



【園職員による職場体験
…生活科】

※小学校の職場体験では、生活科の授業を体験内容に含むこととした。

ウ 相互授業・保育参観

天王小学校区	2名授業参観	3名保育参観・協議参加
出戸小学校区	2名授業参観・協議参加	2名保育参観・1名協議参加
追分小学校区	2名授業参観	1名保育参観・協議参加
大豊小学校区	2名授業参観・協議参観	2名保育参観・1名協議参加

エ 園児・児童の交流

オ その他

- ・5歳児通信と1年生学年通信の交換
- ・5歳児の1年生授業参観、図書室訪問
- ・招待状やお礼状の交換 等

○小学校での職場体験では、生活科の授業の提示をお願いした。保育者は、生活科の授業での子どもの様子から、園での経験や学びが小学校につながっていることを実感することができた。

○相互職場体験の授業参観や保育参観、子どもの交流、事前打ち合わせ等を通して、幼保小の職員同士で話し合う機会が増えた。小学校教育と就学前教育の特徴や相違点、子どもの育ちや学びについて、理解が深まってきている。

●△地区ごとに連携の組織体制は整ってはいるものの、特に、小学校において取組内容や職員の意識に温度差が見られる。公開保育への小学校職員の参加は、働き掛けを必要とする学校区もあった。今後も、授業・保育参観、協議には、アドバイザーもともに参加し補足説明するなど橋渡し役をすることで、少しでも幼保小の敷居を低くしたい。

③架け橋カリキュラム作成推進のために

ア 大館市幼保小担任合同研修会への幼児教育アドバイザー、教育支援アドバイザーの参加
期日：6月1日

内容：「これからの幼児教育と小学校教育の在り方について」

講師 國學院大學 教授 田村 学 氏

「幼保小の架け橋プログラムの大館市の取組状況について」

大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子 氏

- イ 第1回就学前・小学校等潟上市合同研修会 7月31日
大館市の実践から学ぶ (4) ①参照
- ウ 先進校・園研修会視察 大館市川口小学校、釈迦内小学校 8月21日
市指導主事、幼児教育アドバイザー
- エ 架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会 10月24日
小学校、就学前施設の職員6名を架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員として委嘱し、「潟上市版架け橋カリキュラム」の原案や今後の作成手順について話し合った。
- オ 校長への説明、園長会議での説明 11月
- カ 教頭会・主任会議での説明 11月
- キ 潟上市「架け橋カリキュラム作成の手引き」作成、各校・園へ配付
- ク 各校・園での話し合い(各校・園のよさ、課題) 11月～12月
- ケ 各学区での話し合い(期待する子ども像について)
 - 12月18日 天王小・東湖小学校区
 - 12月18日 飯田川小学校区
 - 12月20日 追分小学校区
 - 12月25日 出戸小学校区
 - 12月25日 大豊小学校区



【追分小学区での幼保小職員による話し合い】

- ケ 第2回就学前・小学校等潟上市合同研修会 1月10日
(4) ①参照
- コ 先進校・園視察 大館市立花岡小学校、釈迦内保育園参観 1月31日
架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員2名、市指導主事、幼児教育アドバイザー
- サ 各学区での話し合い、架け橋カリキュラムI期完成 1月～3月
- 各校・園や各学区で、子どもの実態や期待する子ども像について具体的で活発な話し合いが行われた。
- △話し合いを重ねるに従い、園と小学校で言葉の違いや言葉の捉え方に違いがあることが認識されてきている。相互理解を深めるために、今後も相互参観や話し合いへの働き掛けを一層大事にしていきたい。
- △架け橋プログラムのモデル地区である大館市の実践を参考に、本市でも架け橋カリキュラム作成に取り組んできている。学区の話し合いの過程を丁寧に支援していきたい。
- △今年度の幼保小連携事業やカリキュラム作成の話し合いを通して、幼保小のつながりや相互理解が深まっている。この空気を次年度に確実に引き継ぎ、継続していくためには、就学前施設の園長や小学校の校長等の理解や役割、職員への周知が重要であることから、管理職研修の充実を図りたい。

④特別支援教育の視点からの幼保小連携について

- ア 年度初めの小学校訪問・情報交換会
1年生授業参観と情報交換、就学支援事業説明を行った。
参加者：管理職、1年生担任、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任
市指導主事、教育支援アドバイザー、幼児教育アドバイザー
- 4月19日 飯田川小学校
- 4月20日 追分小学校
- 4月25日 大豊小学校



【年度初めの小学校訪問・情報交換会】

6月 1日 東湖小学校

6月 2日 出戸小学校

6月 8日 天王小学校

イ 市職員研修会や支援員研修会への参加

小・中学校職員が参加する市職員研修会や支援員研修会へ保育従事者も参加した。

ア) 市教職員研修会

目的：潟上市学校教育の重点に基づいた研修を通して、各校の児童生徒及び地域等の実態に即した今後の取組や指導の充実に資する。

日時：令和5年8月7日（月）

参加者：就学前施設職員6名 小中学校職員138名

場所：羽城中学校

内容：講話・演習「特別な配慮を要する支援及び学校体制づくり」
テーマ別研修

講師：能代市教育委員会 特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝 氏
秋田県総合教育センター支援班 指導主事 島津 憲司 氏
秋田県総合教育センター支援班 指導主事 牧野 幸枝 氏

イ) 支援員研修会

目的：市内就学前施設で支援を担当する保育士・保育補助と小・中学校に配置されている特別支援教育支援員に対して、役割や適切な支援の在り方等に関する研修を行うことにより、特別な支援が必要な子どもに対する支援の充実を図る。

日時：令和5年9月6日（水）

参加者：6名 小中学校支援員27名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「特別な支援を必要とする子どもへの対応について」

講師：秋田県教育庁中央教育事務所 指導主事 高橋 基裕 氏

ウ 特別支援地区別連絡会

8月18日 天王中学区

8月21日 天王南中学区

8月22日 羽城中学区

各小・中（管理職1名・特別支援コーディネーター1名）

各園長が出席し、特別な支援を要する子どもについて情報を共有する。

エ 幼児通級教室（年中児親子相談会サポート事業）

市教育支援アドバイザーが園を訪問し、1回30分程度の活動を行う。

公立5園で実施。（12名）

オ 関係機関と連携したケース会議の計画的な実施

公立5園では、特別支援学校地域支援部と連携し、教育専門監を招聘しての年2回のケース会議を特別支援教育年間計画に位置付けた。指導助言を日常の保育や保護者との関係構築、就学指導に生かしている。

2回目（12月）のケース会議には、小学校の特別支援教育コーディネーターが保育参観や協議に参加した学校もあった。

カ 部局間連携による事業の見直し・改善について

配慮を必要とする子どもの切れ目ない支援を行うために、子育て応援課健康支援班、施設運営支援班との連携を強化し、現在実施されている事業について見直しや改善を図った。

・4月13日 幼児通級教室「わくわくタイム」について

- ・ 4月28日 年中児相談会について
 - ・ 6月30日 就学指導に関する事業について
 - ・ 8月29日 就学指導に関する事業について
- 教育委員会と子育て応援課との部局間連携の見直しや、関係機関との連携、幼保小中の連携の強化等、一人一人の教育的ニーズに応じて継続的で一貫性のある支援の充実が図られるように体制整備を行った。
- △管理職や特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制の機能の強化を図る必要がある。

⑤幼保小連携だより「かたっこすまいる」の発行(月1回程度)

- ・ 潟上市の全就学前保育施設(14施設)、全小学校(6校)、市子育て支援課、他市アドバイザーに配付。
 - ・ 「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」や「潟上市幼保小連携理解推進事業」について、就学前教育・保育と小学校教育の連携のための情報提供や研修、実践の取組等を掲載している。
 - ・ 架け橋カリキュラム作成に向けての各学校区の取組を紹介している。
- 園や小学校、各学校区の実践を紹介することにより、相互理解が深まってきている。
- 円滑な接続や架け橋カリキュラム作成に関する情報を提供し、共通理解の一助となっている。
- △潟上市ホームページに掲載し、幼児教育や小学校との円滑な接続について保護者や市民への周知を図るようにしていく。

(5)「県との連携体制の充実」

- 昨年度末に幼保推進課指導主事と研修計画等について話し合う場をもち、助言をいただいた。課題を明確化し、取組を具体化することができた。

①県主催協議会への参加

- ・ アドバイザー連絡協議会 4月22日 6月24日 8月25日 10月25日 1月24日
- 他市アドバイザーとの話合いや各地区の取組状況についての情報交換は、本市の取組の改善を図る上での参考となったり、自身の園への関わり方のヒントになったりしている。
- 他市アドバイザーとのネットワークができたことで、今年度は情報交換のみならず、本市の研修会に他市の協力を仰いだり参考資料のやり取りをしたりすることができ、研修の充実を図ることができた。

②県主催研修会への参加

- ・ 園長等運営管理協議会 4月26日
 - ・ 教頭・主任等研修会 5月24日
 - ・ 就学前教育理解推進研究協議会 6月7日
 - ・ 教頭・主任等研修会Ⅱ 11月2日
 - ・ 就学前教育推進協議会 11月21日
- 教育・保育内容の理解を深めたり、園訪問のアドバイスの参考にしたりすることができた。
- 園訪問や学校訪問が増加したため、予定していた研修会に参加することができないこともあり残念であった。
- △6月の就学前教育理解推進研究協議会における秋田喜代美先生の講話は大変参考になった。就学前施設職員はもとより、小学校職員にとっても、架け橋期の子ども理解を深める内容だったと感じる。このような研修は、ぜひ幼保小で共有したい。また、大館市で実施された田

村学先生の講演会もとても有意義であった。可能であれば、モデル地区である大館市の授業研究会や研修会を広くアナウンスしていただき、先進的な実践を学ぶ機会を得たいと思う。

③県教育・保育アドバイザーによる支援訪問

・追分保育園 10月27日

○園への関わり方や支援の仕方、研修会の進め方の他、多岐にわたる疑問や悩みについても指導・助言していただけることは、大変ありがたい。園の課題解決や助言、公開研究会の運営に生かすことができている。

④県指導主事計画訪問・要請訪問への同行

・追分保育園 9月7日

・昭和こども園 9月21日

・天王こども園 10月3日

・出戸こども園 10月5日

・若竹幼児教育センター 11月28日

○計画訪問・要請訪問での園・保育者への指導・助言から、保育の見方や園の課題、課題解決に向けての支援の方法を学ぶことができた。訪問での指導助言を、その後の園訪問で確認したり話し合いに生かしたりしている。指導内容を園と一緒に考え、保育者の意欲や具体的な改善に結び付くようにしていきたい。

⑤他市アドバイザーに学ぶ研修会

・出戸こども園 7月19日…県内豪雨のため中止

・男鹿市船越保育園参観 7月12日

・能代市淳城幼稚園・ていじょう保育園参観 11月7日

○各地区のアドバイザーの実践を参観したり、これまでの経験も含めて参考になる意見や具体的実践を聞いたりすることができた。特に、園内研修の進め方や深め方を実際に参観できたことは有益だった。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和5年度)の成果と課題

○幼保小連携についての職員の意識の向上

- ・相互職場体験の内容の充実（「10の視点」で子どもを見ること、生活科の提示、TT等）
- ・子ども同士の交流活動の充実（事前の計画作成、当日のTTでの進行、事後の振り返り等）

○園内研修の充実と職員の意識の向上（幼児教育アドバイザーの助言・支援等による）

- ・園の実態や、職員の希望を活かした研修内容の工夫

○特別な支援を必要とするこどもへの支援の向上

（園内研修や専門機関との連携による「子どもの困り感を見取る力」の向上、意識の向上）

○潟上市版の架け橋期のカリキュラムの作成に着手

○小規模保育施設と公立園との連携体制の構築

- ・0歳～5歳までの切れ目ない支援につながる連携
- ・小規模園同士の連携や情報交換、日常的な子ども同士の交流や、職員の研修への活発な参加

○他市との連携・情報共有

大館市（架け橋期のカリキュラム作成） 大仙市（職員研修の在り方） 能代市（特別支援教育） 男鹿市（幼児教育アドバイザーの助言の在り方）等

●架け橋期のカリキュラム作成に向けた小学校の管理職の意識の向上と校内体制づくり

●特別支援教育の園内支援体制づくり、管理職の意識の向上